

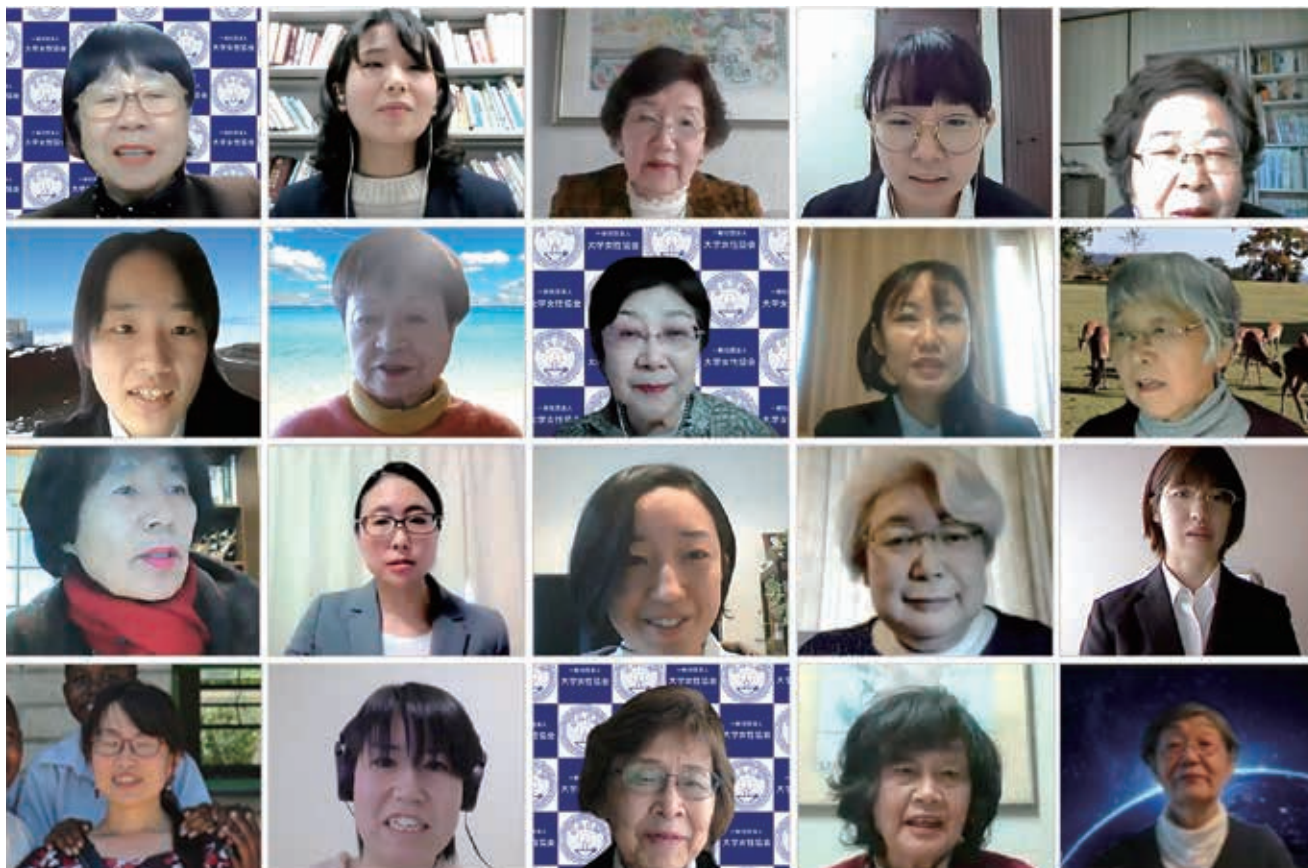
すべての女性が輝く明日のために

JAUW 会報

第272号
2021年3月



一般社団法人
大学女性協会



2021年1月24日 2020年度国内奨学金贈呈記念スピーチ（オンライン開催）

特集 第10回定時会員総会・国内奨学生の決定

会長挨拶「よりよい社会をつくりたい」…………… 2	委員会活動報告～生涯学習、文化事業…………… 8
新しい募金のお願い 「80周年記念募金パトリシア」	
第10回定時会員総会・支部長会のご案内…………… 3	支部の活動報告～京都、金沢、岡山…………… 9
ホームページのリニューアルについて	
国内奨学生の決定…………… 4	お知らせと報告～守田科学研究奨励賞贈呈式… 10
奨学生の研究概要と将来の抱負…………… 5～7	収益事業委員会、新入会員、寄付者ご芳名、 全国セミナーご案内、国際ネットワーク委員会、 理事会から

よりよい社会をつくりたい

会長 加納孝代



大学女性協会がなすべき本来の任務とはいったい何でしょうか。2021年5月23日に定時会員総会を行い、新たに2021年度の活動に踏み出そうとしている今、そのことを考えてみたいと思います。

2020年初頭に新型コロナウイルス感染症の流行が始まりました。大都市圏では緊急事態宣言が出るなどして大学女性協会の活動にも支障が生じました。やるのが当然だと考えていた事業が次々に実施不可能となりました。全国総会も中止、国際奨学生の募集も中止（結果的には2年連続）、その他本部・支部の多くの行事が中止となりました。

本部では2020年度にホームページ（以下HP）のリニューアルを予定していました。方針として、大学女性協会とは何をする団体なのかを、新HPを利用する会員にも、外部の方々にもわかりやすい言葉で説明しようと申し合わせていましたので、この機会に私たちの団体の使命をHP上にしっかりと文字化・見える化しようと工夫しました。

結果的には定款に書いてある大学女性協会の設立目的と事業を、今の時代に引き付けてかなり大胆に構成し直してまとめたものができました。

すなわち、「大学女性協会は「女性の高等教育の向上」「男女共同参画社会の推進」「国際協力と世界平和」を目指して1946年に創設されたNGOです。よりよい社会を作るための「啓発・提言」活動と、未来世代を応援するための「奨学・奨励」事業をとおして、国際協力の上に平和な世界を実現する女性リーダーを育てようとしています」というものです。

その作業の中で私が気付いたことがあります。それは「よりよい社会を作る」がキーワードだということでした。何のために生きるか、という問いが私たちに投げかけられ

た時に、「よりよい社会を作るためです」と迷うことなく答えることができるなら、どんなに気持ちがよいことでしょうか。

皆さんがこの団体の会員になられたきっかけは何でしたか。恩師から言われた、先輩から頼まれた、友人から誘われた、その他いろいろあったでしょう。でもその背後には誘った方の「よりよい社会を作りましょう」という思いがあり、意識してはいなかったかもしれませんが、私たちにもそれに呼応する思いがあったらと思います。「よりよい社会を作りたい」は大学女性協会の「初心」ではないでしょうか。

では私たちはどのようにして「よりよい社会」を作ろうとしているのでしょうか。富士山頂に通じる登山道がいくつもあるように、道は複数あるでしょうが、大学女性協会が選んだのは、定款にあるとおり二つの道でした。自分たちが学ぶことで現在の社会の持つ問題点を見抜くこと（啓発・提言）、そして次の世代を育てること（奨学・奨励）です。大学女性協会の中で「教育」が大事だと私たちはよく聞かされてきたものですが、その意（こころ）は、自分たち自身が学び続けることも、そして学び続ける世代を育てることも教育に帰するからではないでしょうか。

2012年の国の法人改革で大学女性協会は社団法人から一般社団法人に移行しつつあります。完成年度の2029年以降は移行開始後に私たちが蓄えた資金のみをもとに「教育を通してよりよい社会を作る」という課題を目指して活動してゆくこととなります。これが私たちの長期的展望です。

コロナ危機は私たちに未知の可能性へと誘い、新たな能力開発を促しました。今年の1月24日にオンライン形式で開かれた国内奨学生への奨学金贈呈記念スピーチの会はそれを証明するものでした。そして大学女性協会が長期的展望の下、今必要なことを着実に実現してゆく力を持っていることも教えてくれました。ですから私たちは希望をもって歩んでゆくことができるのではないのでしょうか。皆様、一緒に何卒よろしく願い申し上げます。

（新年度）～新しい募金のお願い～ 「80周年記念募金パトリア」

1946年に創立された大学女性協会は75年の歴史を歩んでまいりました。創立70周年記念募金も皆さまの協力のもと目標を達成し、昨年で終了いたしました。奨学金事業や、調査・研究事業に必要な資金は備えられています。しかし今後の運営費の明らかな逼迫を鑑みますと、新年度から新しい募金をお願いせざるを得ません。当面、5年間にわたる事業継続に必要な経費を補うため、ご寄付をお願い申し上げます。

期 間：2021年4月1日～2026年3月31日（5年間）

目標金額：毎年100万円 5年間で500万円

寄付金額：一口5,000円（一年に一度を上記5年間に複数回お願いします）

*4月末の発送を予定している定時会員総会関係書類封筒に、趣意書と振込用紙を同封いたします。

*「パトリア」は本部事務所がおかれているマンション「パトリア信濃町テラス」から採りました。

第10回定時会員総会・支部長会のご案内 2021年5月23日（日）

第10回定時会員総会は新型コロナウイルス拡大の状況に鑑み、対面開催を避けて議案は議決権行使書による審議といたします。

【定時会員総会】 2021年5月23日（日）11：00～12：00 会場：（一社）大学女性協会本部会議室（東京都新宿区左門町）

対面出席者は正・副会長ほか数名のみとし、その他の方は議決権行使書を提出することで出席に代えていただきます。

【支部長会】 2021年5月23日（日）13：30～15：30 オンライン開催（ZOOM）

*今後の予定：4月下旬に開催通知・総会議案書・議決権行使書（葉書）を正会員全員に郵送いたします。議決権行使書（葉書）は出席に代わるものですので、必ず期限までに返送してください。

*総会の審議結果は7月発行の会報273号でご報告いたします。

*懇親会・研修旅行は中止といたします。

*ご不明点は本部事務所にお問い合わせください。

総務担当副会長 森川淳子

会員の皆さまへのお願い

4月下旬に「第10回定時会員総会開催通知」と「総会議案書」と「議決権行使書」（葉書）を正会員の皆さまへ発送いたします。「総会議案書」には2020年度の決算報告、2021年度予算案のほか各種議案が記載されていますので必ずご覧ください。今回の定時会員総会議案には定款変更が含まれておりますので、皆さまには議決権行使書（葉書）を本部宛てに返送するという形で、必ず議決権の行使をお願いいたします。議決権行使書（葉書）は署名、捺印の上、5月10日（月）までに（消印有効）返送してください。

ホームページのリニューアルについて

HP 管理・運営委員 梅田和子

前回のHPは2014年3月に立ち上げました。それから5年半経過、2019年10月、リニューアルすることを決定しました。

会員が必要な情報を得るためだけのサイトではなく、イベントのお知らせや報告を充実させ、外向きを意識したサイトにする事としました。

そのために、アクセス時に迷子にならないようナビゲーションバーのトップダウン化を図り、写真を多用し、ビジュアルで分かりやすい画面にするなど、工夫を凝らしたHPをタブコムさんに試作していただきました。

その試作された画面をベースに昨年2月24日に第一回のHP管理・運営委員会を開催しました。その後は新型コロナウイルスの影響で休止していましたが、5月の総会后、理事会が新体制になりました。加納会長をトップとしたHP管理委員会のもと、6月から月1回、8月からは月2回のZOOM会議を行いました。9月からはHP管理・運営委員以外に理事のみなさまにもご参加いただき、多くのご意見・ご要望をいただきました。

① 会員及び会員外の方にも見やすくビジュアルを多用して、大学女性協会の創立時からの歴史・活動を伝えるよ

うにする。（写真：左）

② 奨学生希望の学生向けのページを設け、国内外の学生に過去の受賞テーマ一覧も記載、アクセスしやすいページにする。

③ 委員会や支部の活動をできるだけ分かりやすく掲載する。（写真：中）

④ これまでのHPで好評を得た会報、シンポジウム・セミナー、調査・研究報告書のアーカイブを充実させる。

⑤ 若い方向けに、スマホやタブレットにも対応する。（写真：右）

以上のコンセプトのもと、みなさまのご意見・ご要望を取り入れ、2020年12月からリニューアルしたHPを公開することができました。今後とも、みなさまに分かりやすく、アクセスしやすいHPを目指していきたくと思っています。

JAUWはコロナ禍の中、オンラインイベントを多数行っていますので、ぜひ積極的にホームページをご覧になり、様々なイベントにオンライン参加していただければと思います。一日も早いコロナの収束を願いつつ・・・



2020年度 国内奨学生の決定

第73回 一般奨学生・第30回 安井医学奨学生選考にあたって

国内奨学委員長 田中 紀子

大学女性協会国内奨学金事業は、一般、社会福祉、安井医学奨学金の3部門からなり、一般奨学生と社会福祉奨学生の中から、女性、教育、国際関係分野の研究を行う学生1名をホームズ奨学生に選んでおります。2020年度は新型コロナウイルス感染症による4月7日の緊急事態宣言のもと、委員会では募集開始を例年通り6月初旬と定め、募集書類の発送、ホームページからの募集を開始し、結果通知はメールで行うことといたしました。

募集を8月末日に締切り、全応募者数は58名でした（一般奨学：51名、安井医学奨学：7名）。各支部で一般奨学部門の一次選考を行い30名、安井医学奨学応募者7名、合わせて37名が本選考会に残り、10月11日に本部会議室／WEB（ZOOM）ハイブリッド開催の委員会として窪田選考長のもと、国内奨学委員16名によって選考を行い、加納会長もWEBで聴取されました。本選考では、応募学生の研究内容や研究への姿勢、将来への発展性、外部への発信能力にも視点が置かれ、委員間で活発な議論が交わされた後に決定されました。まさに大学女性協会ならではの奨学生の選考であったと思います。その結果、ホームズ奨学生には川崎友紀子さん（鳴門教育大学）、一般奨学生には阿形亜子さん（京都府立医科大学）、軽部利恵さん（奈良女子大学）、張米さん（東邦大学）、森遙さん（北里大学）、山下真依さん（兵庫県立大学）、安井医学奨学生には仁田原裕子さん（大阪市立大学）が候補者として選ばれ、11月7日理事会において正式に承認されました。承認後、速やかにメールによる通知を奨学生、大学、支部宛に行いました。本年の特徴として、73回の一般奨学事業の歴史の中で、理系が文系を初めて応募数で上回りました。理系の選考委員が少ないため、今後理系の国内奨学委員数の増員も必要と思われます。WEB委員会、メールによる連絡通知、さらに奨学金贈呈記念スピーチのWEB開催と、初めての種々の試みを支えてくださった方々に感謝申し上げます。

奨学生の皆様にはこれからのますますのご発展を、そして将来闊達な女性リーダーとしての役割を果たして下さることを切に期待しております。

改めてこの国内奨学事業にご尽力、ご協力賜りました全国の支部の方々、関係理事の方々に心より感謝申し上げます。

第49回 社会福祉奨学生選考にあたって

社会福祉委員長 遠藤 理枝

今年度の募集は、新型コロナウイルス禍の状況にあって、果たしてどの程度の応募があるのか危惧をいたしました。例年に比して少ないですが、大学院生1名、学部生2名の応募がありました。10月10日に岩村奨学事業担当理事の同席のもと選考委員会を開催。選考委員の総合評価を基に審査を実施し、身体に障害のある学業・人物ともに優れた女子学生として、大学院生1名、学部生1名を候補者として選出し、11月7日理事会での承認を経て今年度の社会福祉奨学生に決定しました。

大学院生の記伊実香さんは聴覚に障害がありますが、職業経験、8年に亘る社会人学生として仕事と学業の両立を経て、障害者と健常者が共に学ぶ場の研究を通して福祉社会・共生社会の実現に寄与したいと、今後は博士課程に進学されます。学部生の尾澤佳奈さんは、13歳で半身まひと視力障害を発症されましたが、小学生の頃から学校教育にかかわる仕事、子供たちが楽しく勉強するための支援をする仕事がしたいとの志を持ち、卒業後はIoTやAIの学校教育や教材への展開を支援する通信関連の仕事に就く予定です。奨学生の方々には十分力を発揮して夫々の目標に向かって頑張ってくださいますよう祈っています。

2020年度 国内奨学金贈呈記念スピーチを視聴して

国内奨学委員 向後 紀代美

例年、「新春の集い」で行われていた国内奨学金贈呈式は、コロナ禍のためオンラインで1月24日（日）に開催されました。田中紀子国内奨学委員長のエネルギーリードのもと、遠藤理枝社会福祉委員長が協力。また、オンラインに詳しい嶋田君枝理事からは技術指導だけでなく精神的にも励ましていただきました（「大丈夫よ」の一言で、どれほど助けられたことか）。また中道貞子理事・奈良支部長からも準備段階から協力をいただきました（奨学生の入室が遅れた際、とっさの判断でケータイから連絡され、事なきを得ました）。プログラムは加納孝代会長の祝辞、田中、遠藤両委員長の選考経緯説明、一般奨学生5人、安井医学奨学生1名、社会福祉奨学生2名のスピーチ、各推薦支部長のメッセージと続きました。ホームズ奨学生だけは当日修士論文の発表と重なったため、窪田憲子選考長による紹介と秋光正子前委員長のスライド説明代読となりました。岩村道子奨学事業担当理事の閉会の辞で、初の試みであったZOOMによる記念スピーチは無事終了。現代の重要テーマをわかりやすく話した奨学生たちのスピーチは、多くの人に感銘を与えました。参加者は予想以上の75名（桑折美子社会福祉委員集計）でした。

研究概要と将来の抱負

ホームズ奨学生

マラウイの女子生徒における就学の継続性に着目して



鳴門教育大学大学院 学校教育研究科
国際教育コース 修士課程2年

川崎友紀子

現在の大学院においてマラウイの女子学生の就学継続について研究を行っています。以前は、2015年から2年間青年海外協力隊員としてマラウイでの理科教育に携わりました。そこで現地でしか触れることのできない課題に直面し、教育内容だけでなく教育者の基礎力の向上や全体的な応用力の増進に携わりたいと強く考えるようになりました。私が2年間教えた生徒たちを、帰国2年経た2019年にもう一度勤務校を訪れた時になんと半分以下に女子生徒が減っていました。マラウイのような貧困が広範囲に広がっている国では女子学生が継続して学び続けることが非常に困難です。途上国の女子学生の就学継続と学力成果を十分に発揮できるように支援をしていきたいと考えています。青年海外協力隊参加以前に中高理科免許も取得しており、大学院在学中も中学校で教壇に立ち中学生に理科を指導してきました。日本で培った理科教育経験を活かしながら、途上国の女子学生のニーズにあった理科教育を行えるように支援を考えています。今後も現状に即した援助を行えるように一層の努力をしていくつもりです。

一般奨学生

ネアンデルタール人型 GLI3多型と神経発生



京都府立医科大学 医学研究科
博士課程2年

阿形亜子

約4万年前に絶滅したネアンデルタール人は、我々ホモ・サピエンスと交雑していたことが明らかになっている。ネアンデルタール人はすでに絶滅しているものの、近年のPCR技術の飛躍的發展に伴って化石試料からのゲノムDNAの抽出が可能になった。本研究では、ネアンデルタール人と我々ホモ・サピエンスのDNA配列における差異（多型）について、神経発生に重要な役割を果たしているSHHシグナルの下流因子（核へのシグナル伝達物質）であるGLI3に着目している。従来の研究は、①DNA配列を明らかにするもの、②それらDNA配列を現生人類が受け継いでいるか否かを調べるもの、が主流であり、それらDNA

配列が、当該生物にどのような形態学・分子生物学的違いをもたらしていたのかは未だ明らかでない。本研究では、発生生物学の実験手法を用いて、ネアンデルタール人とホモ・サピエンスの絶滅と繁栄の分岐に寄与したであろう神経分化プロセスにおける違いを明らかにする。ネアンデルタール人型のようなGLI3多型は現生人類においても神経管閉塞障害といった先天性障害に関わることから、それらの治療に貢献できる可能性もある。これらのテーマは、以前では化石の形態から想像することしかできなかった絶滅生物の生態について、細胞レベルでの違いを明らかにすることができるところが魅力である。私は以前に社会心理学を専攻して博士号を取得しているため、将来は社会性と遺伝子の進化について研究を進めたいと考えている。

上代特殊仮名遣いを中心とした上代日本語の文字表記の研究



奈良女子大学大学院
人間文化総合科学研究科
博士後期課程2年

軽部利恵

私の現在の研究対象は、漢字のみを使って読み書きされた奈良時代以前の上代における、「上代特殊仮名遣い」である。キヒミケヘメコソトノモヨロの音節について、例えば「子・恋」のコは甲類の仮名「古・故」、「此・心」のコは乙類の仮名「許・己」で書かれ、両者は紛れることがないとされる。この上代に特有の現象について、編纂物と一次資料という、資料の性質と書き分けの様相との関係性を考察している。これまで万葉集などの編纂物における研究が中心であったが、出土に応じて新たな知見が更新される木簡などの一次資料では、書かれ、読まれ、廃棄された当時の実態が、現存する物質に即して分析できるという特色がある。廃棄する前提で書かれた木簡や正倉院文書と、後世に残すために編まれた万葉集等では、書く目的が異なっており、木簡や正倉院文書の中でも、多様な用途の違いがある。個々の資料ごとの書記のあり方を考察することで、目的や用途、内容、メディアの違いが、書かれる言葉や文字、書記そのものにどのような影響を及ぼすのか明らかとなる。読み書きという言葉と文字を使ったコミュニケーションのあり方を考究する手段となると期待でき、本居宣長以来200年になろうとする研究史に、様々な点で再考を促すことになると考える。

今後とも、国内外問わず学会発表や論文執筆を精力的に行い、研究を通して得た知見を社会に還元する、後学の範となるような研究者になりたい。

アオガンピ属薬用植物由来の
新規抗 HIV 活性ジテルペノイドの探索研究



東邦大学大学院
薬学研究科薬科学専攻 修士課程2年
張 米

現在約3,800万人の患者を有する HIV 感染症は全世界においてさらに拡大しており、大きな社会問題となっています。既存の抗ウイルス薬による多剤併用療法（ART 療法）では HIV を体内から完全に駆除することができないため、患者は生涯にわたって服薬を続ける必要があります。そこで、HIV の根絶を目指した新規抗 HIV 薬の創製が急務とされています。ジンチョウゲ科薬用植物には、強力な生物活性を持つジテルペノイドが含まれることから、天然物創薬の分野において大いに注目されてきました。私はそれらジテルペノイドが持つ抗 HIV 活性に着目し、新規 HIV 感染症治療薬の創製を目指してジンチョウゲ科アオガンピ属植物の化学成分研究を行っています。修士・博士課程を修了した後は国の研究機関、大学または製薬企業で研究者として薬学研究に携わり、今までの経験から学んだ知識および技能を活かして、薬学研究の更なる発展に貢献していきたいです。また、自身が培った国際的な視野を活かし、異なる文化的背景を持つ研究者との積極的な交流を通じて、日中間をはじめとした国際的な学術交流に貢献していきたいです。同時に、留学経験者として、日本への留学を希望する学生や日本での研究を希望する若手研究者のサポートにも尽力していきたいと思っています。

新しい幾何学を用いた初期宇宙の時空構造の解明



北里大学大学院 理学研究科
博士課程1年

森 遥

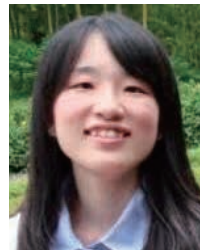
現在の宇宙の時空構造は一般相対性理論によって記述されるが、これには適用限界がある。私に関心を持っているのは、適用限界の先にある、重力が強くて大きく歪んだ時空の構造である。このような時空は、実験観測が不可能な初期の宇宙やブラックホールの内部などに現れる。よって、私たちが住んでいる宇宙の成り立ちを理解することに繋がるだろう。

近年、このような時空も扱えるような、一般相対性理論を超えた新しい理論が提唱されている。しかし、この理論は構造が複雑で、座標変換が規定できないという問題を抱えている。一般相対性理論がリーマン幾何学によって記述されたように、物理と数学は相補的に発展すると予想され

る。よって本研究では、理論構造を整理するためのツールとして倍化幾何学という新しい数学の枠組みを開発し、上述の座標変換の問題の解決を図る。リーマン幾何学からの類推により、曲率や捩率などの時空の形を特徴付ける量を倍化幾何学上に定義する。そして、倍化幾何学に現れる、重代数と呼ばれる構造に着目する。重代数は、座標の取り方をわずかに変える方法を与える。無限小変換を繰り返すことで、座標の取り方を大きく変える方法を規定する。

数学系・物理系は理系分野の中でも特に女性研究者が少ないのが現状である。これは、男女比が極端なあまりこの分野に進むのをためらう人が多いことや、難しそうだという印象が先行して研究の魅力が伝わっていないことが原因だと考えられる。将来は、女性研究者としての姿を自ら示し、多くの女性が理系大学・大学院に進学しやすいような環境作りに取り組みたい。

高分散分光観測による前主系列星の磁場強度の調査



兵庫県立大学大学院 物質理学研究科
博士前期課程2年

山下真依

私は100万-1000万歳の若い天体「前主系列星」の内部構造と磁場の進化について研究しています。太陽(46億歳)のような星は電気を帯びたガスで構成され、その運動は強い磁場を生成します。ただし天体の内部や磁場の直接的な観測は難しいことが知られています。そこで磁場と関連の深い大気層である「彩層」を観測しました。第一段階として彩層のカルシウム輝線の強度を解析しました。太陽の彩層の活動領域は全体の数%である一方で、前主系列星では全体が活動領域に覆われていることが判明しました。現在は天体の内部構造の解明を目指し、マグネシウム輝線を解析しています。期待される成果としては、前主系列星の内部構造を決める「混合距離(ガスの混ざり具合)」を初めて測定できる可能性があります。これは星の年齢や質量などの基本的な情報を得るために必要な物理量です。従来の理論計算では混合距離は仮定されていましたが、本研究はその問題点を解決するかもしれません。

私は博士後期課程に進学し、将来は研究者として数十年間にわたり「天体でいつ核融合反応が始まるのか」という未解決問題に取り組むつもりです。しかし若手研究者には常勤職がほとんどなく、2~3年間の任期付きの職が多数です。そのため出産・育児の計画が立てにくいという困難を抱えています。私は①自分がワークライフバランスを保ちながら研究を続け、②性別を問わず研究者が生きやすい社会作りも模索したいと考えています。

安井医学奨学生

シャーガス心筋症の病態解明に向けた、ゲノム病原因子特定



大阪市立大学大学院 医学研究科
後期博士課程2年

仁田原裕子

シャーガス病は、病原性原虫（学名
Trypanosoma cruzi）の感染に起因する
寄生虫感染症で、中南米を中心に

600万人以上の感染者を有す。原虫感染は、心不全や不整脈などの致死的心筋症を惹起するが、原虫感染者の3割のみが症状を呈し、他は無症状のまま生涯を終える。この「発症の偏り」を説明しうる、原虫感染から心筋症の発症までのメカニズムは、未だ明らかでなく、効果的な心筋症治療薬も存在しない。

私は医師となったのち、シャーガス心筋症の高度蔓延国である中米エルサルバドルで、感染症予防対策のボランティア活動に約2年間従事した。この国で、治療薬を待ち望む心筋症患者と、心筋症の発症に怯える原虫感染者を数多く目の当たりにした。しかし私は、原虫感染予防以外に戦う術を持たず、医師としての無力を痛感した。この経験から、帰国後、「ヒト」全体を対象として広く社会に貢献できる研究の道を志し、大学院の門を叩いた。現在私は、感染原虫の遺伝子タイプとシャーガス心筋症発症の連関に着目し、原虫の網羅的遺伝子解析に基づいた発症因子の抽出を目的とした研究を行っている。明確に因果関係の証明された発症因子の発見は、未だ治療薬のないシャーガス心筋症に対する薬剤開発研究に繋げていくことも期待される。研究の道りは始まったばかりだが、これからも、自身の研究がどの様に実社会や医療現場に適応可能かを常に考え、研究・臨床の垣根を超えた医学研究を展開していきたい。

社会福祉奨学生

レイ・ブラッドベリ『華氏451度』の歴史・社会的背景



学習院大学 文学部4年

尾澤佳奈

本研究は、1950年代のアメリカ人作家レイ・ブラッドベリによる小説『華氏451度』の描写に見られる50年代のアメリカ社会における反知性主義の特徴

とマッカーシズムの影響、また作者が伝えようとすることを考察している。この作品は本を所持することが禁止された世界が描かれたディストピア小説である。この世界では本の所持が見つかりと昇火士と呼ばれる職業の職員が家ごと、時には本人ごと燃やしてしまう。主人公であるガイは

昇火士であった。しかしクラリスという少女との出会いや職務の中で燃やした老婆の影響で本の魅力に気づき本を所持し見つかってしまう。ガイは逃げる中で自分のいる世界の異質さに気づき本の意味や知識を知識として終わらせず自分の血肉とすることの大切さに触れていく。

この作品が著された50年代のアメリカでは共産党員と思われた人々を迫害するマッカーシズムの渦中にあった。マッカーシズム下のアメリカの教育は共産党を頭ごなしに否定し生徒に初めから考えさせないというものであった。作品の中の学校教育はアメリカの各州のとうもろこしの生産量などの情報をただ暗記させておくだけで良いとし、生徒が深く考えることを悪とした。これは当時のマッカーシズムの旋風に盲目的に飲み込まれていく様子を表現しており、著者のブラッドベリはこの様子を批判している。本研究を通して社会の波に盲目的に流されずに自ら考え、自分の考えや意志に基づいて行動することの重要性を意識して生活していきたい。

障害者と共に学ぶ共生型生涯学習の場の構築



早稲田大学大学院 社会科学研究所
地球社会論専攻 修士課程2年

記伊実香

近年、高齢化に国際化、情報化、そして技術革新への対応などの観点から、生涯学習がいっそう推進されるようになりました。また障害者においても、生涯学習が社会参加を支え得ると、その推進策が打ち出されています。

そのような機運の中では「共生社会」という言葉も併用されるようになりました。しかし、生涯学習の場における共生の概念には、障害のある人もない人も共にといったインクルーシブな学習環境であることとの隔りがあるように見受けられます。共生社会における生涯学習の場への期待やその実現のイメージが明示されることは、共に学ぶ場の構築に貢献すると考えております。私は現在、これを学びの場の提供者の観点で概念ならびに概念関係を表出しました。

次年度は、博士後期課程に進学し、学びの参加者の観点を含め、共に学ぶこと的作用について取り組む予定です。そして、社会教育の専門家として自立し、共生型生涯学習の場の拡充に関わることを希望しています。私自身は障害を持つ社会人学生であり、大学の支援室や家族の協力を得ながら学んでおります。この経験は、成人であっても学びを通して多くの人に関わり続けることで、自己変容していくものであることを実感しています。このような学びの経験を、多くの障害のある人にも知っていただきたいと願いつつ、引き続き研究テーマに向き合ってまいります。

Jカフェ第8回 開催報告

生涯学習委員長 渡部由紀子

コロナ禍で余儀なく開催が延期されておりましたJカフェ第8回を11月17日（火）に本部事務所会議室とZOOMによるハイブリッド形式で開催致しました。講師には、会員である中道貞子氏（理事・奈良支部長／奈良女子大学国際交流センター客員センター員）をお迎えしました。

多くの方にとってはあまりなじみがないアフガニスタンについてのクイズから始まり、豊富な写真も見せていただきながら、アフガニスタンとの関わりが始まったいきさつから、なぜバーミヤンに全額私費で共学の小中一貫校を建設することを決意されるに至ったか、開所後も状況が許す限り、定期的に学校を訪れて、学校の維持整備のみならず、ご専門である生物の授業をご自身で実施されるだけでなく、特に女性理科教員の指導・養成まで、さらには卒業生のフォローまでされていることを詳しくお話いただきました。学校建設前から現在に至るまで学校のインフラ整備から、生徒・教員の指導育成までの包括的な支援を継続されていることがよくわかりました。

長期にわたった戦争から未だ復興中のアフガニスタンの初等教育充実のためにさまざまな形で継続的に支援されている中には、障害のある生徒を日本に呼んで治療を受けさせ、自立した生活を送れるようになるまで見守られたお話も伺い、個人でここまでの支援を実行されている方が会員にいらっしゃるのことがわかり、参加者一同深い感銘を受けて、予定時間を越すまで活発な質疑応答がなされました。

多様な民族・言語が混在する国の一つであり、タリバンに破壊された仏教遺跡がある程度しか知られていないバーミヤンで初等教育の場を提供し継続的に支援されていることに、参加者は多大な敬意をもってお話を伺っていたことと思われま。教育機会の提供、特にイスラム圏での女性教員指導・養成の大切さ、継続的包括的な支援の重要性を改めて喚起し、貴重な機会を与えていただいた講師に感謝いたします。詳細はHPのJカフェ通信をご覧ください。



PCには配信中のZOOM画面、奥は中道講師（本部にて）

初回のZOOMによるハイブリッド開催としたため、参加者20名中10名がオンライン参加でした。

～天満敦子さんをお迎えして～

事業担当理事 藤谷文子



大学女性協会主催（文化事業委員会担当）の「天満敦子無伴奏ヴァイオリン～祈り～」が12月2日とうとう実現できた。実はこの計画を始める頃の昨年5月はコロナの第一波が押し寄せてはいたが12月初め頃には収束するかも？という期待の

もとにハクジュホールの契約を済ませた。その上幸いなことに天満敦子さんと鷺見文化事業委員長との強い絆のおかげで交渉は非常にスムーズに進んだ。今更経歴を言うまでもないが東京芸術大学大学院卒後海野義雄、故レオニード・コーガンらに師事、ロンティボー国際コンクール銀賞受賞後国際的に活躍、特に“望郷のバラード”はクラシックとしては異例の10万枚を超えるヒットとなり天満さんの代名詞ともなっている。そんなわけで観客動員は万全となったのだがやはりコロナのせいで300席の半分150席のみ使用ということとなった。文化事業委員会の委員の力を結集してチラシ、チケット、パンフレット作製まで手づくり作業、これぞ大学女性協会会員の持つ底力と言えるかもしれない。チケットも11月には完売となった。

当日、コロナ蔓延の時期と重なり300席の半分以下の観客の中、無伴奏ヴァイオリンが豊かな音色で会場に響き渡った。皆微動だにせず聞き入っていた。アルマンド、トロイメライ、祈り、タイスの瞑想曲は勿論、望郷のバラード等々10曲を時には力強く、時には緩やかに—その澄んだ音色には皆魅了されていた。休憩なしで次へ繋ぐショートトークで私には250歳の旦那様がいるのよ！！と本当に愛おし気に名器ストラディバリウスを抱えて話す様子はかわいさに満ち溢れていた。後半に入ると会場に来ていた誰もが知っている子守唄、母に歌ってもらった思い出、故郷の景色等々を思い、皆それぞれが郷愁にふけていた。休憩もなくあっという間の2時間が過ぎ名残惜しい気持ちで拍手は鳴りやまず、そこへ突然会場を暗くした中にスポットライトを浴びて天満さん再登場、アンコール曲が演奏されるや否や張り詰めた雰囲気の中涙ぐむ人もちらほら、やはり音楽の持つ力のすごさ、素晴らしい曲を生で聞く喜びは何物にも替えがたいという結論に至った次第である。

なおのちに天満さんから加納会長へのお便りにも大学女性協会との絆はずっとつないでいきたいとのこと、わたくしたち委員会もそのうれしい言葉に希望をつないでいきたいと願っている。

第1回例会 2020年9月17日「コロナ禍における会議や活動」講師：佐賀千恵美会員 京都支部長 高橋侑子

今年度初めての例会を開催するにあたって、役員会で次のことを重視して内容の検討をした。1. コロナ感染に対する安全性の確保 2. テーマを定め、内容のある例会にすること 3. 中止も視野に入れ、変更可能な講師にお願いすること。

結果、日程は例年通り9月、会場は安全性が確保されている「ウイングス京都」、講師は活動中の会員佐賀千恵美弁護士にお願いする、会員への案内は開催の1か月前まで待つことなど、これまでにない配慮が求められた。幸いその後、心配するほどの感染拡大はなく、会員に案内したところ、これまでの例会を超えるほどの参加希望者があり、自粛生活から抜け出し、会員相互の面会の機会が待たれていたように思えた。

9月17日午後に開催された例会で、佐賀講師はコロナ禍の状況を資料に基づいてわかり易く丁寧に説明された。パンデミック下の社会状況、IT化の後れていた日本の司法手続きがその方向に動き出していること、また、ウェブ会議の特色、利点、欠点、更には大学女性協会での利用の可能性にも触れられた。

講演後の質疑応答では、法廷でのコロナの影響など司法関係や、テレワークなどの普段と違う生活の大変さ、コロナ禍でのマスク着用など同調圧力の怖さなど、活発な質問や意見が相次いだ。久しぶりの顔合わせで、お互いに元気を分かち合え、中止の予定であった、秋の野外研修も希望が多く、紅葉の京都御所見学も実現することになった。



(公財) 金沢国際交流財団の事業とともに歩み成長する金沢支部

金沢支部長 笠間昭子



「かなざわ国際交流まつり」は、市民が世界の文化、国際協力活動などに身近にふれあい、親しむことで、国際理解や市民レベルの国際交流を促進するとともに、金沢で暮らす外国人市民と日本人市民が同じ地域社会の一員として相互理解や交流を深めることにつながる機会の提供を目的として、金沢市庁舎前広場を会場に毎年開かれています。金沢支部はほぼ当初から参加してきました。28回目となる2020年も、10月10日・11日の両日、午前10時から午後3時まで（例年は4時まで）、石川県内の27国際交流関係団体と共に参加しました。

団体名・活動を市行政側に認知してもらう手段に市議会傍聴、傍聴者受付名簿に団体名記載。市民、観光客、小学生・同伴者も立ち寄る環境作り、強風雨対策などが開催日までの仕事でした。市長・市議会議長・女性市議会議員が立ち寄り、説明を聴いて戴けたことで頑張りが報われたと思っています。JAUW会報、セミナー報告書、外国人市民のための防災ハンドブック、金沢市母子手帳、それぞれ実物を掲示しました。2021年は〈金沢SDGs行動計画〉金沢ミライシナリオに合わせSDGs目標4、5、11を取り上げます。

コロナ禍を乗り越え開催できた第1回研修会&支部例会 2020年11月15日 岡山支部長 角田みどり

岡山支部では、コロナ禍により前半期に予定していた支部例会や研修会は全て中止・延期となりました。しかし、感染拡大が少し下火となった11月15日に、感染防止対策（マスク着用、手の消毒、検温、三密回避）を万全にして、支部例会と研修会を実施しました。メーリングリストによる一斉送信案内で、24名の方がご出席くださいました。

第1回研修会の演題は「女性の教育、女性の幸福度～私たちが出会った女性たち ニジェール、韓国～」でした。岡山大学教育学部教授の上村弘子先生が、かつてJICA青年協力隊員として滞在されたアフリカ・ニジェールで出会った女性たちの逞しく生き抜く姿を通して、女性の幸せとは何かを改めて考察するご講演でした。HDI（人間開発指数）が世界最下位、しかも最貧国で一夫多妻制という環境にあっても、お喋りとお洒落が大好きで、幸福度調査では満足度が高いという実態に、異文化や価値観の違う社会の中でポジティブな生き方をする女性たちの姿勢に感銘を受けました。また、上村先生のゼミ生である大学4年生金行葵衣さんも韓国留学で出会われた女子留学生たちのグローバル指向、日本しかない養護教諭制度の価値、将来の養護教諭への夢などを語られました。

ご参加の方々からご質問が相次ぎ、非常に有意義で満足していただける研修会となりました。3月7日にも国際女性デー記念の講演会「女性とスポーツ」を開く予定で、実施可能な事を最大限実現させて前進しています。



上村先生・ニジェールの民族衣装を身に着けて

第23回大学女性協会 守田科学研究奨励賞贈呈式【Web開催】

第23回守田科学研究奨励賞の贈呈式および受賞講演会をWEB開催いたします。

受賞講演は、第22回と第23回受賞者の方々に行っていただくことを予定しております。多くの皆様にご参加いただきたくご案内申し上げます。

日時 2021年6月6日（日）
贈呈式 13時00分～13時25分
受賞講演 13時30分～15時30分

会費 無料 奮ってご参加ください。

受付開始 4月1日（予定）

* WEBでの申込受付を予定しております。
* 詳細はHPでご確認ください。

ご報告 収益事業委員会

〈観劇の報告〉

2020年11月25日（水）歌舞伎「平家女護島」
12月14日（月）文楽「桂川連理柵」
2021年 1月 9日（土）「舞楽法会 北辰奉賛」
1月27日（水）歌舞伎「四天王御江戸鏡」
2月20日（土）文楽「伽羅先代萩」他

※収益事業委員会は活動を通して協会の資金を集めています。活動については「JAUW会報」第269号（2020年3月）をご覧ください。JAUWホームページを通して楽天でお買い物をされた皆様、JAUW対象の丸大ハムのキャンペーンをご利用になられた皆様、観劇会にご参加くださった皆様、寄贈品をお寄せくださった皆様ありがとうございます。心より感謝申し上げます。楽しい活動をお楽しみに！



新入会員 理事会承認 2020年11月～2021年2月

神奈川支部 星野歩子 京都支部 岡本悦子

創立70周年記念募金のご報告

期間：2020年11月1日～2021年2月4日
寄付人数：2名 寄付金額：20,000円
寄付者ご芳名（敬称略）
（元職員）薄田 明美（福岡支部）和栗 方子
お陰様で、
寄付者総延べ人数：669名 寄付総額：¥10,102,313円
に達しました。感謝とともにご報告申し上げます。

2021年度 全国セミナーのご案内 企画委員会

テーマ「教育・ジェンダー・共生
～コロナ後の共生社会を支える教育～」
日時：2021年11月13日（土）午後～14日（日）
開催方法：会場参加とオンラインの併用（予定）
会場：（独）国立女性教育会館（ヌエック）（予定）
内容：基調講演、3名程によるセッション、GWI報告（CIR）、男女共同参画連携会議報告（担当理事）、委員会及び支部による報告発表（テーマに沿った内容で募集します：申込締め切り6月末）
・基調講演 西澤直子氏（東京支部会員、石川県立大学学長）
・セッション（教育関係者、ソーシャルワーカー、支援団体関係者など数名）

GWI 会員広場とは 国際ネットワーク委員会



世界中のGWI会員が友情を育み、スキルセットや専門知識を共有する場として昨秋始まったGWI会員広場（Membership Marketplace）。好評につき2月からより多くのコースが用意されました。今までにないこの取組みは、語学、就活支援、読書会指導法等を会員が他の会員にオンライン上で無償提供し、学びと互いの友情を育むことを目的としています。会員限定のため事前にSkypeのID取得が必要です。ご関心のある方は、詳細を鈴木千鶴子CIRにお問い合わせください。

なお、「会員広場」のもうひとつは「NFA = 国別連盟・協会間」で行われる、以前のTwining（双子）プログラム。双方のNFAにとって有益な企画を一緒に進めるものです。JAUWホームページのGWIニュース10月号に詳しい紹介があります。

理事会から

- ▶ コロナ感染拡大のため第6回理事会（12月）、第7回理事会（1月）は、ZOOM会議で開催されました。
- ▶ 東京都のコロナ感染による緊急事態宣言により、本部事務所を閉鎖していましたが、2月8日（月）に再開しました。2月と3月は月、火、木、金に開室します。
- ▶ 2021年度のセミナーは城倉企画委員長のもと、準備を進めております。

一般社団法人 大学女性協会

〒160-0017 東京都新宿区左門町11番地6-101
電話 03-3358-2882 F A X 03-3358-2889
http://www.jauw.org E-mail: jauw@jauw.org
発行人 加納 孝代 編集責任者 穂田 信子
発行日 2021年3月8日